

平成27年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
① 自主自立の精神の涵養	責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
② 人間性の陶冶	規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③ 勤労を尊重する精神の育成	勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④ 進路指導の充実	生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤ 学習指導の充実	わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥ 生活指導の充実	生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦ 部活動の充実	顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づく特色ある教育を行い、社会に有為な人材育成に努める。知・徳・体のバランスがとれた人作りを目標とし、学習指導、生活指導、部活動に力を入れる。生徒の肉体的成長を促し、生徒・保護者の夢につながる進路指導を行い、その成果により本校の社会的評価が高まり、本校が発展することを目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 ( ) 評価せず または 評価できず

学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ (教務) 他分掌の協力を得て円滑に行事の運営ができた。基礎学力向上のための漢字テスト時間を見直し、授業時間の確保に努めた。</li> <li>○ (図書) 蔵書における分類の割合の把握、不足テーマを補うよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導の充実をさらに図る。</li> <li>○ 授業時間の確保に努める。</li> <li>○ 環境整備を終了させ利用者増を目指す。</li> <li>○ 授業に使える図書館を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒による授業アンケートを年二回実施し授業力向上を図る。</li> <li>○ 朝読書企画の定着を図る。</li> <li>○ 学校行事・学年行事の時期などを他分掌と調整し、授業時間の確保に努める。</li> <li>○ 生徒とともに館内レイアウト作成や廃棄を進める。</li> <li>○ 資料の充実を図るとともに県立図書館と連携した授業支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A</li> <li>C</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一学期末に第一回を実施した。第二回は二学期末実施予定である。</li> <li>○ 課外の取り組みだが集中して読書する環境になっていない。強化週間などを設けて定着を図りたい。</li> <li>○ できる限りの調整を行い、授業時間確保に努めている。</li> <li>○ 図書委員、図書部員とともに館内展示やレイアウト変更を行ったり、老朽が進んだ資料については見直しを進めた。今後はより活動の回数を増やし、環境整備を進めたい。</li> <li>○ 県立図書館をはじめ様々な機関と連携して様々な資料やパネルを準備し、授業の支援を行うことができた。選書の回数を増やし、豊富な資料の受け入れと提供に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A</li> <li>B</li> <li>A</li> <li>B</li> <li>A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 二学期末に第二回のアンケートを実施した。年二回の実施により、経過が数値データとして示され、より充実した授業が展開された。</li> <li>○ 強化週間を設定し啓発に努めた。クラスによっては集中して取り組む姿勢がみられた。</li> <li>○ 他分掌の協力や、年度末スケジュールの見直しにより授業時間増が実現した。</li> <li>○ 図書委員とともに館内の整備、重点的な清掃に力を入れた。こうした取り組みとともに、生徒の目線を大切に資料の展示、掲示を行うにつれて図書館を訪れる生徒は大幅に増えた。今後は貸出数の増加に向けた取り組みをしていきたい。</li> <li>○ 教科、進路選択に関連した資料を豊富に受け入れ、県立図書館と連携した資料提供に引き続き努めた。教科と連携した資料を揃えることで、授業、自学で利用するための資料を探しにくる生徒が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ さらに優れた学習環境にするためには、教職員の努力だけでなく生徒の自発的な活動が必要である。朝読書企画もクラス役員からの呼びかけなど、色々な仕掛けを用意していきたい。</li> <li>○ 各種講演会・研修会を含めた学校行事の仕分けを行い、学習に集中して取り組める期間を設けたい。</li> <li>○ 他校の図書館や公共図書館と連携した見学・交流の場をもったり、定期的に生徒とともに選書を行うことで、生徒の読書意欲を喚起させ、貸出数の増加を目指す。</li> <li>○ 教科に関連した図書館でのイベントを企画し、生徒が楽しみながら知識を深めたり学習の意欲を喚起できるような仕組みを作りたい。また、環境整備についても定期的に見直していきたい。</li> </ul>
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生生活が有意義なものとなるよう継続して指導を行う。</li> <li>○ 社会のルールやマナーの遵守について、全校集会での呼びかけや、クラスでの担任指導を徹底させる。</li> <li>○ 年度途中で自転車の交通規則が変わったことを受け、新しい規則の指導と遵守を徹底させたい。</li> <li>○ 問題行動に際しては、引き続き関係教員との連携を密にして対処、指導を行う。</li> <li>○ 全教員が違反の生徒に対して、その場で止めて注意・把握をして正させてから次の移動に入らせる。そのためには、生徒指導部が学校規則の理解・把握をし、委員会等で共通理解を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>○ 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。</li> <li>○ 問題行動に対して迅速適切に対処し、生徒の立ち直りと問題の拡大防止をはかる。</li> <li>○ 全教員で指導に取り組み温度差をなくす。</li> <li>○ 保護者の理解を得て、協力してもらうようにする。</li> <li>○ 学校視察を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生生活を通して学校生活に早く慣れさせる。</li> <li>○ 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。</li> <li>○ 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。</li> <li>○ 学校規定カバン使用の指導を徹底する。</li> <li>○ 学校内での携帯電話使用禁止を徹底する。</li> <li>○ 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。</li> <li>○ いじめを許さず、見逃さない。</li> <li>○ 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。</li> <li>○ 問題行動に際しては関係教員との連携を密にし、適切な処置をはかる。</li> <li>○ 生徒指導は基本的に全教員で行うことを確認する。</li> <li>○ 保護者への文書配布や松萌会活動との連携を密にする。</li> <li>○ 生徒指導を徹底して行っている学校の視察を行い、本校の指導に役立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続してルーム、通学指導などで声をかける。</li> <li>○ 基本的マナーについて全校集会などで全体指導を行う。</li> <li>○ 様子を見て立ち番指導を増やすなど、粘り強い指導を行う。</li> <li>○ 全校集会や各クラス担任指導を継続して行う。</li> <li>○ 交通ルールについて再度徹底する。</li> <li>○ 継続して立ち番指導を行う。</li> <li>○ 概ね対処できている。</li> <li>○ 再度、教員間での認識確認を行う。</li> <li>○ 保護者宛ての文書が行き届いていないことも多いので、ホームページを有効利用してもらう。</li> <li>○ 2学期以降に予定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>B</li> <li>( )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新入生生活で、学校生活に早く対応する効果は出た。</li> <li>○ まだまだ積極的に挨拶ができないので、引き続き指導していく。</li> <li>○ 概ね達成できたが、1年生男子の着こなしの徹底が出来ておらず教員間での確認が必要である。</li> <li>○ 立ち番指導を行ったが違反の靴を持って来る生徒が多かった。</li> <li>○ 貴重品扱いとして担任に預ける指導を徹底していきたい。</li> <li>○ クラスを空ける場合施錠をすることによって物の紛失が減少した。</li> <li>○ 普段より担任を中心に生徒の状況を把握して、概ね適切に指導・対応できている。</li> <li>○ 被害者情報等の連絡をして、身の安全を第一に注意喚起した。交通安全指導は十分行ってきたが、一部守れない生徒もいたため今後の検討課題とした。</li> <li>○ 迅速に対応できた。</li> <li>○ 生徒指導部内での学校規則の理解・把握は概ねできている。これを基盤に全教員への徹底をはかっていきたい。</li> <li>○ 家庭の協力を概ね得られていると思う。</li> <li>○ 諸事情により本年度は中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有意義な新入生生活となるよう、継続して指導を行う。</li> <li>○ 挨拶、服装、学校規定靴の使用、校内での携帯電話使用の禁止、社会ルールやマナーの理解については、全校集会での訓話や生徒指導部および担任の指導を中心に、継続して根気よく指導していく。</li> <li>○ 全校集会での呼びかけやクラスでの担任指導を徹底する。</li> <li>○ 被害者情報の提供と注意呼びかけ、交通ルール遵守の指導を継続して行う。特に立ち番指導を強化していきたい。</li> <li>○ 引き続き関係教員との連携を密にして対処・指導を行う。</li> <li>○ ホームページを有効活用してもらう。</li> <li>○ 来年度は学校視察を行い、本校の生徒指導の取り組みに生かしていきたい。</li> </ul>
就職指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ たとえ好景気であっても、大切なことは「生徒の能力・適性に合った受験先の指導」で企業のホームページではないことを今年痛感した。生徒・保護者の理解を促したい。</li> <li>○ そもそも「夏休み中に複数の企業の職場見学を推進する。」を実現するには遅くとも1学期中の進路の方向性が必要不可欠であり、現に本年度より1学期終業式までには、見学の大半はアポイントを取っている。生徒には早め早めの方向性の確立し、夏休み中の企業見学を促す。</li> <li>○ 誰の為の勉強で、なぜ努力が必要なのかを伝えることに力を入れたい。</li> <li>○ 就職するという心構えを再度伝えることに力を入れたい。</li> <li>○ 社会に出てから生徒達が困らぬように、コミュニケーション能力育成についてまずは教員が深く掘り下げて勉強する必要があります。教職員のHR指導力向上にも有効に思う。2年生進路学習LHRの内容を強化したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。</li> <li>○ 職業観の養成に努める。</li> <li>○ 学力向上に努める。</li> <li>○ 早期退職防止に努める。</li> <li>○ コミュニケーション能力の向上に努める。(企業が一番求めているもの)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「進路総合評価」「進路適性検査」を参考にし、担任又は就職・教育支援担当者、カウンセラー及び部活動顧問、家庭と関係機関との連携を密にし、個別面談を重ね、適切な進路指導に努める。</li> <li>○ LHRを活用した進路学習・進路講話及び進路合宿、企業見学、企業体験、業者によるセミナーを通して、生徒が自主的に積極的に自分の進路に向けて行動できるように導く。</li> <li>○ 就職問題集・漢字テキストを配布し家庭学習を推進しながら、基礎力診断テスト及び毎週行なう漢字テストで実力を把握し、「パワーアップ講習」「就職特別講習」「就職夏期講習」等で補い、就職試験に備える。</li> <li>○ 県内外の卒業生の就職先を訪問し、進路指導を行なう。また、旧担任及び部活動顧問と連携し、仕事の継続を説く。尚、在学中は内定者を対象にした校長講話・進路講話等行ない、定着するように導く。</li> <li>○ 学校全体指導体制で行なう。就職指導部としては2年時にLHRを活用して、コミュニケーション能力の養成を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B</li> <li>B</li> <li>C</li> <li>C</li> <li>B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まだ途中ではあるが、生徒の能力・適性に合った受験先の指導に努めている。</li> <li>○ 昨年度は比較的に夏休みの企業見学した生徒は結果を出せていた。本年度も推奨し、企業と生徒のすり合わせを丁寧にし、入社後のミスマッチをなるべく無くしていきたい。</li> <li>○ 学校での取り組みは成果をあげている。もっと家庭学習を充実させる必要がある。</li> <li>○ 残念ながら、今年も早期退職者がいた。生徒の忍耐力をつけさせる必要がある。</li> <li>○ 本年度の3年生は2年次よりLHRを利用して強化してきたつもりでいたが、結果が出ていないと思われる。2年次よりスタートし始める体制はいいと思うので内容を強化したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A</li> <li>A</li> <li>A</li> <li>B</li> <li>B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3社、4社と受験した生徒もいたが、好景気を背景に1社目の内定が多く、意図している企業への内定も目立った。</li> <li>○ 夏休みの見学は多くの生徒が参加し、企業研究が出来たと思う。但し、見学の当日欠席もあり、生徒の質の向上を来年度の重点課題とした。</li> <li>○ 最低限の学力は入社試験に必要な要素で、入社後も実務で問われる場合もあり、学力面で生徒たちが就職先で苦労する事が予想される。早期から試験対策をして内定につながる様に今後も指導していきたい。</li> <li>○ 早期退職は5、6月に多かったがそれ以降は直止めがかかった様に思える。早期退職防止の進路指導を行い、企業との関係を強化していきたい。</li> <li>○ 企業が主なのか、生徒が主なのか、好景気を背景に新入社員教育の仕方にも賛否両論ある。新しい文化がすぐに生まれる時代なので、教員側の勉強・理解も必要不可欠である。上手に取り入れコミュニケーション能力の向上に努め、企業側の意思も理解させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ たとえ好景気であっても、大切なことは「生徒の能力・適性に合った受験先の指導」で企業のホームページではない。生徒・保護者に理解を促したい。</li> <li>○ 生徒には早め早めの方向性の確立し、夏休み中の企業見学を促す。</li> <li>○ 誰の為の勉強で、なぜ努力が必要なのかを伝えることに力を入れたい。</li> <li>○ 就職するという心構えを再度伝えることに力を入れたい。</li> <li>○ 社会に出てから生徒達が困らぬように、コミュニケーション能力育成についてまずは教員が深く掘り下げて勉強する必要があります。2年生進路学習LHRの内容を強化したい。</li> </ul>

学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
進学指導部（普通科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報に基づいた内容を検討する必要がある。</li> <li>○普段から積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながらより適切な進路指導が行える態勢を作る必要がある。</li> <li>○担任との面談の結果、指導が必要と思われる生徒については指導部との連携のもとに適切な対応・指導ができる態勢を強化する必要がある。</li> <li>○課題により学習習慣をつけるとともに、その課題学習内容をどのように授業に組み込み、学力の定着を図るかについての検討が必要と考える。</li> <li>○各種検定の積極的な受験を促すため、全員受験の実施を前提に、受験時期や指導内容を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりの個性を大切に。きめ細やかな進路指導を行うことにより、生徒の目標達成の可能性を広げる。</li> <li>○継続的な学習習慣、目標を定め主体的に学ぶ姿勢を身につけさせることで、学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学説明会や講演会、保護者懇談会を催し、保護者への情報の提供と共有を深める。</li> <li>○定期的に普通科担当者で連絡会を設け、情報交換を行うことでより適切な指導を目指す。</li> <li>○個人面談を年間2回以上行い、学習や部活動、志望進路の状況を把握し、適宜指導が可能な状況を作る。また生徒が進路に関する情報を入手しやすい環境作りを推進する。</li> <li>○放課後課題を毎日の取り組みとして習慣化させるよう指導するとともに、小テストを行うなどして理解度を確認しながら学力の向上につなげる。</li> <li>○各種検定試験や模試を積極的に受験し、資格取得と自ら学習目標を設定しその達成に向け努力する姿勢を身につけさせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科担当者との連携を強化し、生徒一人一人に対する適切な状況把握と指導ができる環境を作る必要がある。</li> <li>○学力の向上と定着を図るため、模試やスタディーサポートの結果分析を行い、生徒が抱えている問題に対し学習習慣や学習方法についての適切な指導ができる体制を確立する必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学説明会や進学懇談会などを通じて、保護者・生徒への必要な情報の提供を行うことができた。また、3年生の受験指導など、進路指導において指導部内での情報交換、連携を図ることができた。</li> <li>○11月の「語彙・読解力検定」や1月の「漢字検定」は、2年生の多くが受験した。指導時間不足など検討すべき問題はあがるが、今後できるだけ各種検定受験に臨ませようとする。また、「スタディサポート分析報告会」を年2回実施し、生徒の現状把握と今後の対策について検討する機会を持つことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学説明会における講演内容など、保護者・生徒が必要としている情報提供を継続していく必要がある。また、普段から積極的に情報交換を行い、共通理解を図りながらより適切な進路指導が行える態勢の強化に努めたい。</li> <li>○課題への取り組み、および課題の学習内容を反映した授業の展開を通して、学習習慣の定着と学力の向上に努めたい。また、各種検定については全員受験を前提に実施時期や指導内容の検討を継続して行い、積極的な受験を促したい。</li> </ul>
進学指導部（専門学科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学説明会や進学懇談などの見直しを行い、内容の充実を図る。</li> <li>○夏期講習の方法や進学コース以外の学科試験受験者への対応方法を検討する必要がある。</li> <li>○引き続き学年、教科との情報の共有と活用を努める。成績データを担任が活用しやすくする。</li> <li>○出願書類の種類や添付書類、出願期間などについて担当者が正確に把握し、早めの指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の特性と希望に沿った進路指導を行い、進路の保障に努める。</li> <li>○生徒の学習の習慣化、学力の向上を図る。</li> <li>○学習成果の確認につながる取り組みを行う。</li> <li>○受験手続きの指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進学情報の提供を行うことにより、様々な入試形式の正しい理解と、目標とする分野・学校の研究および比較検討の機会を作る。</li> <li>○進学面接を実施し、個々の進路希望の把握と、段階に応じた適切なアドバイスの提供に努める。</li> <li>○長期休業中や放課後の講習、放課後課題を実施し、積極的かつ継続的に学習する姿勢の定着を図る。</li> <li>○校外模試の実施および事前・事後の指導を通して、目標を持って計画的に学習に取り組む環境を作る。</li> <li>○担任と連携して出願手続きの指導、確認を行い、受験に備えさせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報誌の配布や校外進学説明会の案内などを通し、分野や学校研究の機会を増やすことができた。多種多様な情報ツールを把握し、その効果的な活用方法を発信していく必要がある。</li> <li>○3年生進学希望者を対象に個人面接や進学懇談を行い、個々の進路希望の把握に努めた。進路未定の生徒に対し、情報提供とアドバイスを継続して行いたい。</li> <li>○夏期講習をより効率的・効果的なものとするための見直しを継続して行っていきたい。</li> <li>○「基礎力診断テスト」のデータをもとに、どのような進路選択が可能なかを生徒にわかりやすく提示できるようにしたい。</li> <li>○1学期中に出願手続きを行うケースはなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の配布や業者主催の進学説明会の案内を通して進学情報の収集を呼びかけるとともに、情報誌の活用方法を進学通信で紹介し、配布資料の有効活用と生徒の意識高揚を促した。また、2・3年生の進学希望者とその保護者を対象に進学懇談を行い、情報提供とアドバイスに努めた。その際、懇談担当者間の事前打ち合わせを行い、指導内容や提供すべき情報についての確認を行った。</li> <li>○放課後講習、放課後課題の実施については、教科担当を中心に適切に行うことができた。夏期講習についても各部署との調整を図りながら、滞りなく実施することができた。</li> <li>○「基礎力診断テスト」「スタディサポート」の成績、分析情報を全教員で共有することで、学年や教科との連携がスムーズに行っている。</li> <li>○担任と連携しながら適切かつ迅速に出願手続きを進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏期講習の方法や進学コース以外の学科試験受験者への対応方法について、引き続き検討していきたい。</li> <li>○生徒の進路選択への意識高揚と新テスト導入の動きに対応した学力の養成を目的として、現行のマーク式校外模試に加えて記述式模試の導入を検討していきたい。</li> </ul>
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権が尊重される教育の実践を目指し、昨年度より《ことば違いアンケート》の実施に向け、検討を重ねてきたが、まだ実施に至っていない。</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす」</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○左記の目標を達成できるように《ことば違いアンケート》を実施し、指導に役立てる。</li> <li>○日頃より生徒の言動に注意を向け、特に他者を傷つけたり、不快にしたりすることに対しては、その場その場での指導をするように努める。</li> <li>○</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年度内中の実施の目的は立ってきたが、他の部署の実施するアンケートを踏まえて、多少、内容を改める必要がある。</li> <li>○現在のところ、他者を傷つけようとする生徒の発言は報告されていない。見えにくいところにも目が届く指導を努めていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度に関しては（1月末現在）、人権の観点から、大きな問題は報告されていないが、そのことは、教職員の指導・啓発の成果と捉えることができる。しかしながら、《ハイパーQU》なども活用しているにもかかわらず、まだまだ生徒の実態をうまく把握しているとはいえない。《ことば違いアンケート》なども実施し、生徒の潜在的な問題にも正面から見据え、目標に掲げられているような「人格の育成」ができていないかをチェックし、指導・啓発していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まず生徒の実態を把握し、課題を直視しなければ、方策を計画、実行し、評価、改善（PDCA）していくことは難しいように思われる。これまでも様々なアンケート・調査などが行われてきたが、学校全体で、これらを統合し、総合的に生徒の実態を把握し、方策を設定し、それを活用していく必要性を感じる。</li> <li>○全体推進計画については、毎年、見直しをしているが、より生徒の実態に応じた広範囲の見直しが必要な時期に来ている。</li> </ul>
環境保健部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の掃除の徹底に、クラスによっては、監督が届かない所も見られ、見回りを重視しなければいけないと感じた。</li> <li>○ゴミ分別が理解されていない状況があるので、教職員を含め、ゴミ分別の徹底を図っていく必要がある。</li> <li>○毎日の清掃、美化の日、クリーン作戦、鳥取掃除に学ぶ会など、環境美化に取り組む姿勢や気持ちは高めることに努めた。ただ、掃除の仕方、掃除の場所が理解できていないと感じることがあるので、徹底を図りたい。</li> <li>○研修会、講演会を実施し、教師、生徒の健康保持意識や環境に対する意識を高めた。救急救命においては、参加者の減少が気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境美化、環境保全に努め、勤労を尊重する精神、社会に貢献しようとする意欲を育成する。</li> <li>○生徒の健康保持・増進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教室の掃除の徹底。</li> <li>○美化の日を設定し、環境美化の推進を図る。</li> <li>○学校周辺の地域美化活動を実施する。</li> <li>○省エネ、ゴミの分別などを通して、環境にやさしい生活を考えさせる。</li> <li>○性教育の充実（1年生対象講演会）（職員研修会）</li> <li>○救急救命蘇生法研修会</li> <li>○環境教育講演会</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の清掃や美化の日、大掃除の取り組みなど校内美化の取り組みはできるようにしたが、省エネ、ゴミ分別などがまだまだ不十分である。</li> <li>○1年生対象の性教育講演会は、実施して、生徒も性に対して真摯な姿勢で考えることの大切さを学んだ。その他の講演会などがまだ実施できていないので、評価できない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の清掃はもちろん、学期ごとの大掃除、美化の日などの全校一斉清掃に対する取り組みなどにも教員、生徒が熱心に取り組んでいる様子が見られるようになった。部室の清掃など、部活で行う清掃がゴミの分別など、不十分な点が残るので、今後の改善に取り組むたい。</li> <li>○教職員対象の性教育講演会はまだ実施できていないが、1年生対象の性教育講演会、全校生徒対象の環境教育講演会、教職員対象の救急救命講演会は好評を得られた。生徒、教職員ともに今後の生活、指導の助けになると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教室の清掃や学期ごとの大掃除などでは、熱心に清掃に取り組む姿勢が見られる。教室以外の清掃や部活の清掃にも注意が必要。</li> <li>○ゴミの分別はかなり徹底されてきているが、まだ分別を理解できていない生徒、教員もいるので今後も指導が必要。</li> <li>○環境美化に取り組む意識は少しずつ育まれていると感じるが、電灯のスイッチ破損やゴミの投棄など自らの生活環境を守ろうとする意識にまだ欠けている生徒が見られる。環境美化、環境保全に取り組む意識を育てていきたい。</li> <li>○各講演会、研修会を行っているが、生徒が積極性に欠ける様子が見られるので、内容を吟味するとともに、環境や健康に対する意識を高めていきたい。</li> </ul>
学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など

教育相談・支援部	(支援体制の充実) ○ 個別支援(入学後～)が長期化・複雑化。支援担当配置等の課題。 ○ 外部連携の広がり進路支援機関。医療・福祉支援機関。大学・専門学校等。 ○ 支援対象の広がり本人を取巻く周囲からの(保護者・関係機関等)相談依頼件数等の増加。 ○ SC体制・SW体制の定着。 ※SC(スクールカウンセラー) ※SW(ソーシャルワーカー) ※サポステ(若者サポートステーション)	(支援体制の充実) ○ 支援生徒・相談生徒を抱えている担任サポートの校内体制の充実。 ○ 支援生徒・保護者等を支える外部連携の充実。	(支援体制の充実) ○ 学年としての関わり。主任・学年を中心に情報の共通認識・関わり体制が必要である。 ○ 教科担当として対象生徒の指導・関わりについて相談・サポートする体制が必要である。 ○ 学校として対象生徒への連携会議・学校全体の取組みを推進する。 ○ SC・SW等の活用 ○ サポステ面談の活用 ○ 進学・就労先との連携 ○ 医療・福祉機関連携	C ① 学年主任を中心とした関わり体制の中、とりわけ新入生支援相談に力を入れた。 B ② SC(月平均6件)・SW(月平均2件)対応。 サポステ(月平均2件)対応。電話相談(月平均4件程度) 進学・就労相談(2学期後半) 医療・福祉機関連携(月平均2件程度)継続中。	C ① 学年主任を中心とした学級・生徒支援体制が定着化してきた。 B ② SC・SW等の支援体制が定着し、生徒・保護者・教職員等の相談件数が増えた。 サポステ連携が定着し、早期の進路相談ができるようになった。 早期からの進学・就労相談が困難。入学時からの進路相談の必要性。医療・福祉機関連携の定着化。	一部の教科・担当に指導等を転化するのではなく、学校全体としての体制作りが必要。 連携会議・ケース会議の必要性を教職員・学校に伝えていく方策が必要である。 支援を必要としている生徒・保護者の進路相談を入学時から進めていく必要あり。	
	学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	最終評価	目標の達成状況

生徒会執行部	○ 提案の検討を継続する。進捗状況によっては目標そのものについての検討が必要とされる。 ○ 新しくチャレンジしたことを定着させるためにも継続した活動が必要であると思う。 また、生徒会活動が学校全体の活動であることを生徒、教職員含め学校全体に周知していただけるように活動していきたい。 ・ 他分掌との関わりを密に持つことで意思疎通がはかられ、学校行事等が円滑に運営できるのではないかと思います。今後さらに活動の幅を広げたい。	○ 生徒会活動の充実	○ 執行部を中心に各クラス中央委員と学校行事を充実したものにする。 ○ 全生徒の執行部への勧誘 ○ ボランティア活動の呼びかけをし、生徒の参加を促す。 ○ 他分掌と生徒会執行部のお互いの要請等により活動を計画・実施する。	B スポーツ祭・体育祭において、生徒会執行部の準備。各クラス中央委員が全校生徒への連絡役として機能させることができた。残る文化祭においても全校で学校行事に取り組みたい。 また、生徒会規約の改正を生徒総会に諮り、承認された。 ボランティアについても例年通り、滞りなく各施設などの依頼により呼びかけ、募集している。 松萌会との意見交換会が実施され、渉外部との連携もできた。	A スポーツ祭・体育祭において、生徒会執行部の準備。各クラス中央委員が全校生徒への連絡役として機能させることができた。文化祭においても全校に協力していただき、滞りなく実施することができた。 また、生徒会規約の改正を生徒総会に諮り、承認された。 ボランティアについても例年通り、滞りなく各施設などの依頼により呼びかけ、募集している。 松萌会との意見交換会が実施され、渉外部との連携もできた。	新しくチャレンジしたことを定着させるためにも継続した活動が必要であると思う。 また、生徒会活動が学校全体の活動であることを生徒、教職員含め学校全体に周知していただけるように活動していきたい。 他分掌との関わりを密に持つことで意思疎通がはかられ、学校行事等が円滑に運営できるのではないかと思います。今後さらに活動の幅を広げたい。	
	学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	最終評価	目標の達成状況

総務	(防火・防災) ○ 昨年度は2学期に火災避難訓練と津波避難訓練を1回ずつ実施した。 (管理) ○ 施設・設備・備品の管理は概ね行っている。 (入試) ○ 受験生のわかりやすさや事務処理の効率性において改善の余地が残っている (広報) ○ 様々な説明会やイベントが活発に行われたが、それらを有機的に関連付ける点で工夫、改善が必要である。	○ 生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、また、災害から生命、身体を自らの力と協力で守れるようにする。 ○ 安心・安全な学校生活を送れるよう施設・設備・備品を管理する。 ○ 円滑に入学試験に関する業務を遂行する。 ○ 本校の実績と魅力を受験生、保護者はもちろん、できるだけ多くの人に理解してもらう。	○ 1学期に火災避難訓練、2学期に地震避難訓練を行い、地震避難訓練については津波避難も想定して行う。 ○ 備品等を整理し、管理を正確に遂行できるよう、工夫する。 ○ 入試に関する事務処理を整理し、中学生や中学校の先生にとって簡潔で分かりやすいものへ引き続き改善をすすめる。 ○ 入学案内、ホームページ、オープンスクール、説明会、松蔭杯、各行事の特性を生かして、本校に関する情報を効果的に発信する。	A ○ 7月に火災避難訓練を実施した。地震避難訓練を2学期に実施する。 A ○ 体育館床張替、照明LED化で学習環境が飛躍的に改善された。懸案だった箇所の修理・修繕も終了した。 B ○ 正確さを確保しつつ、簡潔さへの改善を慎重に実行中である。 B ○ 入学案内、ホームページ等内容面の改善をある程度図ることができた。内容や迅速性についてさらに改善を図っていく。	A ○ 予定通りの時期に、火災避難訓練、地震・津波避難訓練をそれぞれ1回ずつ実施した。 A ○ 施設・設備の管理はできている。校舎の老朽化により、修理・修繕箇所が増加している。 A ○ 入試事務の正確な処理と合理化が進んだ。 A ○ 各分野の改善が進み、次年度の広報活動にも早くから取り組んでいる。	○ 様々な状況に対応できるよう、訓練を工夫して実施できるようにしたい。 より迅速な管理、修繕等ができるよう、記録を残すことが必要である。 引き続き受験生にとって分かりやすく、また、正確な処理が行えるように改善を図る。 次年度の広報の準備を早くから始め、余裕をもって広報活動ができるようにする。	
	学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	最終評価	目標の達成状況

一年部	○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 学習習慣の確立 学習態度の改善 ○ 生徒指導の徹底 ○ 社会性・人間性を養う	○ 欠席・遅刻のないように、朝読書の時間に見回り、始業前には全員を席に着かせる。 ○ あいさつの指導を徹底する。 ○ 宿題や提出物の確認・徹底。 ○ 漢字テストを定期的に行う。 ○ 集中して学べる環境作りの強化 ○ 非行・麻薬防止講演会を開催し、指導を受ける。 ○ 服装・礼儀・言葉遣いの徹底指導 ○ 家庭との連絡を密にして生活の乱れを未然に防 ○ LHRを活用し学習する ○ 学年集会で指導する。	A ○ 朝読書の時間の見回りを継続し、遅刻ゼロを目指したい。 ○ 強制された形だけのものではなく、場面に合わせて気持ちのこもったあいさつを目指したい。 B ○ 引き続き継続して指導する。 ○ 引き続き実施する。 ○ 教室内の整理整頓、掃除の徹底をする。 B ○ 服装をきちんとする意義、礼儀や言葉遣いを正すことの大切さを教えて、自ら進んで良くしていこうとする姿勢を養わせたい。 B ○ 相手を尊重する心を育て、お互いに助け合い、協力しあう仲間作りを目指したい。	B ○ ・朝読書の見回りを徹底することで、落ち着いて始業に臨め、遅刻も激減した。 ○ ・まだ、声の小さい生徒はいるが、大半の生徒は気持ちよく挨拶できていた。 B ○ ・一部の生徒を除いて、提出物を期限内に提出する習慣が身についた。 ○ ・事前の漢字プリントの成果もあり、不合格者が減った。 ○ ・常に清潔な教室環境を保てた。 B ○ ・ネクタイのつけ忘れなどがあったが、服装面は比較的良かった。 ○ ・言葉遣いや態度が荒い生徒も一部いるが、継続して指導して行きたいと思う。 B ○ ・各学級担任から、その時に一番必要な人権教育をしたいという要望があり、クラスの現状にあった内容で取り組んだ。おかげで、学年全体が落ち着いた。	○ ・朝読書の習慣をさらに強化・徹底したい。 ○ ・受け身ではなく、積極的に挨拶できる明るく環境を作る。 ○ ・学習習慣、提出習慣を身につけさせる努力の継続。 ○ ・制服が新しくなり、指導ポイントや認識が、他学年とは違うので、今後の模範的な着こなしができるようにし続けていく。 ○ 自分の感情をコントロールする力を、成長とともに身につけてほしい。		
	学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	最終評価	目標の達成状況

学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
二年部	<p>年度当初に比べると遅刻・欠席・早退は減少した。</p> <p>頭髪や制服の着こなしについては改善されてきたが、あいさつについては不十分である。</p>	<p>○ 基本的な生活習慣の定着</p>	<p>○ 生活指導等の充実 ・人権教育 ・インターンシップ ・清掃活動 ・服装指導 ・遅刻指導</p>	B	<p>○ インターンシップ、人権教育公開授業を実施した。清掃活動、服装指導、遅刻指導は継続して行っている。</p>	A	<p>年度当初に比べると遅刻・欠席・早退は減少した。頭髪や制服の着こなしについても改善された。</p>	<p>普段から校内美化に努め、人任せにせず、自ら整理整頓できる態度を養う。</p> <p>礼儀と規範意識をさらに高め、自己管理ができるように育成する。</p>
	<p>家庭学習が定着している生徒と定着していない生徒の学習意欲の差が大きい。</p> <p>個人面談、保護者面談や進路学習を通して、生徒の進路意識が向上した。</p> <p>二回の基礎学力診断テストを実施し、弱点の把握ができた。</p>	<p>○ 学習習慣の定着</p>	<p>○ 特別指導内容の充実 ・二者面談や三者面談 ・放課後、土曜講習 ・漢字テスト ・パワーアップ講習 ・基礎力診断テスト等の結果を踏まえた個別指導</p>	B	<p>○ 1学期4回の漢字テストを実施し、2学期は7回の予定である。放課後、土曜講習は普通科を中心に行っており、パワーアップ講習は夏休み中に実施した。2学期より希望生徒に対して進路特別講習を放課に月・火・水の7限目を実施している</p>	A	<p>年13回予定していた漢字テストを計画通り実施することができた。二回の基礎学力診断テスト、個人面談、保護者面談や各種講習を通して、生徒の進路意識や学習に対する意欲が向上した。</p>	<p>将来像をより明確にさせ、具体的な進路目標を持たせる。</p>
学年分掌	平成26年度末の状況	平成27年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
三年部	<p>○ 学習意欲に差があり、意欲の低い生徒に対して更に指導助言が必要である。</p>	<p>○ 学力の向上</p>	<p>○ 服装指導時の課題チェックや漢字テストの事前、事後指導を学年部全教員で行う。</p>	B	<p>○ 各クラスで課題点もあるので、実力に応じて今後も対応していきたい。</p>	B	<p>○ 担任を中心に助言は行い、1人1人の意識向上に繋げることができた。</p>	○
	<p>○ 概ね良好ではあるが、挨拶については今後とも一人一人が状況に応じた挨拶ができるよう継続指導する。また、服装においては教員の声かけを徹底する</p>	<p>○ 生活指導の徹底</p>	<p>○ 学校生活を通し挨拶の徹底を行う。</p> <p>○ 服装指導時のみならず普段よりきちんとした身だしなみ、清潔感のある服装に努めさせるよう指導する。</p>	B	<p>○ 挨拶、服装ともに全教員にて継続して指導を徹底する。</p>	B	<p>○ 生活状況については概ね良好であった。</p>	
	<p>○ 具体的な情報を提供し、意識の高まりを促す。</p>	<p>○ 進路意識の高揚</p>	<p>○ 生徒の進路希望を実現するべく、進路学習や進路合宿の充実、きめ細やかな指導に努める。</p>	B	<p>○ 進路合宿や進路説明講演会を通して生徒の進路に向き合う意識が高まった。更に面接練習や出願書類の点検、指導で一人一人の意識を高めていきたい。</p>	B	<p>○ 自己の目標に向かい意識を高めるための具体的な情報が提供できた。生徒一人一人が進路に対しての意識が高まった。</p>	
	<p>○ お互いの気持ち、思いを尊重することの大切さは理解できているが、不用意な発言や行動によって相手を不快にすることもあるのでしっかりと考えて行動できるように指導していく。</p>	<p>○ 人権教育への積極的な取り組み</p>	<p>○ 人権学習を通じ、お互いの個性を尊重する気持ちを育み、それを行動に移させるよう指導する。</p>	B	<p>○ それぞれを尊重し合う意識は高まっている。その意識が行動に表せられる生徒に育つよう、今後も継続指導を行う。</p>	B	<p>○ 互いの意見を言い、尊重しあえる環境を整えることができ始めた。</p>	